

県防災訓練に米軍参加

4/23 柳

8月 オスプレイは見送り

兵庫県などが8月に実施する総合防災訓練に、県の要請を受けて在日米軍が初めて参加することが22日、関係者への取材で分かった。県内の防災関係機関とともに救出訓練などに当たるとみられる。米海兵隊の新型輸送機オスプレイの投入も調整中だが、今は見送られる見通し。

自治体主催の訓練に「巨大地震などに備えて在日米軍が参加するのた米軍との協力体制を」とは異例。東日本大震災での米軍による救援活動「トモダチ作戦」を踏まえ、米軍は自治体との関係構築をさらに広げ、県側は南海トラ

予想される。関係者によると、自衛隊などを通じて県が訓練への参加を打診。これまでに参加の意向が米軍側から伝えられ、オスプレイについては機材の調達が難

しい状況という。米軍の参加部隊や規模、投入される機材、県内入りのルートなどは未定。緊急物資の輸送や救出訓練への参加に向けて県などが調整しているという。

関係など約100機関の計約2千人が参加する。県は実施費用として約310万円を2014年度当初予算に盛り込んでいる。自治体が主催する防災訓練では、和歌山県が今年10月に実施する津波災害対応訓練に、米軍がオスプレイとともに参加する計画が明らかになっている。

も議論する。地域情勢では中国のほか、北朝鮮や日韓関係、ウクライナ情勢を議題とする。グローバルな課題として、女性の活躍推進や災害救援、テロ対策などを取り上げる。面政府は当初、共同声明作成を見送る方針だったが、同盟強化をアピールするため約2年ぶりとなる包括的な日米共同声明を発表する方向で最終調整している。東南アジア支援などを盛り込んだ付属文書も発表する。